



管理者様へ

司法書士法人おおさか法務事務所の

はる! 後見人通信

2月号



てくてく後見レポート

【自宅での一人暮らしをご希望されて】

シニア向けの施設に入居していたAさん。しかし、至れり尽くせりの生活よりも、「**自立した一人暮らしをしたい**」という思いが強く、転居を希望するようになります。ところが、物件探しや引越しなど、いろいろな手続きと準備をひとりだけで行うのは難しい状態。頼れる親族もおらず、施設の担当者を通じて当法人にサポートのご相談がありました。

【保証人にはなれないものの・・・】

面談をさせていただくと、「一人暮らしをする部屋を借りるための保証人になってほしい」というご要望も。後見人になると、立場上から保証人になることには問題が生じます。ただし、**後見人の仕事である“財産管理”には、「適正な支払い」も含まれます。**このことから、シニア向け施設の場合だけでなく、一人暮らしでも、大家さんによっては**後見人がいれば保証人がいなくても受け入れてもらえるケースがあります。**

当法人が後見人としてサポートを開始したのち、Aさんは当初の希望通り転居。現在も、バリアフリー対応の賃貸マンションにお住まいです。訪問介護や訪問診療などを利用され、イメージ通りの完全自立ではない部分もありますが、できることは自分で、難しい部分だけお手伝いを受けての暮らしぶり。

そんなAさん宅の床、時間をかけて、車椅子のAさんご自身の手で、フロアワイパーでピカピカに磨いていらっしゃいます。いつも太陽の光が反射して、キラキラしています。



まさみんの チャレンジ！レクリエーション



＜アイスブレイクについて～その3～＞

状況に応じたアイスブレイクの内容について、引き続きお届けします。今回は初対面同士の緊張・不安が解消される以前の内容でしたが、今回は**参加者同士に一体感が生まれた状況**でのアイスブレイクです。

■状況に応じてアイスブレイクの内容を変える

③**集団目標を設定できるまでに一体感が出ている状況**
参加者同士で相談したり、応援し合うものが有効です。例として「1組3～5人のグループに分かれ、担当者が出したお題に合ったものを考える」など、グループ意識をもたせるアイスブレイクなどが該当します。

④**集団が継続されながら、メンバー間に地位や役割が生まれている状況**

信頼や結束が強くなると、参加者間でお互いの役割を理解し始め、得意／不得意分野を助け合いながら解決していくものが有効です。例として「グループ毎によく知っている昔話で配役を決め、言葉を使わずにジェスチャーで表現する」など、グループ内で一定の役割と作業を与えるアイスブレイクなどが該当します。

状況に応じたアイスブレイクの展開方法には様々な種類があり、インターネットなどでも調べることができます。**その時々で行う目的をふまえ、節度をわきまえる**と共に、**参加者の特性や集まりの目的に合わせて適切な方法を選ぶ**と効果的なようです。

